

臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報は厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名：小児外科 吉村 翔平

【研究責任者】

聖路加国際病院 小児外科 吉村 翔平

停留精巣の手術時期と精巣微小石灰化の発生率に関する研究

1. 研究の対象

2004年1月～2018年12月に停留精巣に対して手術を受けたお子さん(～15歳)。

2. 研究の目的・方法

停留精巣に対する精巣固定術の至適時期は、日本のガイドラインでは生後12～24ヶ月、欧米のガイドラインでは生後6か月～18ヶ月と設定されています。しかし、日本と欧米で至適手術時期が異なるように、未だに世界中で議論が行われています。

精巣微小石灰化は、精巣超音波検査で診断される精巣実質内に見られる3mm未満の石灰化所見です。超音波検査の進歩により近年注目されている現象でありながら、病的な意義については不明であり今後世界中で研究が進んでいくと考えられます。停留精巣のお子さんでは正常のお子さんと比較して発生率が高く、精巣腫瘍や男性不妊との関連性も報告されています。

当科では、多くの停留精巣のお子さんに対して術前術後に超音波検査を実施しており、比較的多くのお子さんで精巣微小石灰化が認められています。精巣固定術の時期によって精巣微小石灰化の発生率が異なるのではないかと仮説を立てており、この仮説を検証するために本研究を企画しました。

なお、この調査では通常保険診療以外の医療行為はなく、診療録(カルテ)に記載される内容についての調査のみとなります。調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2022年3月31日までの予定です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究で使用する主なデータ項目は以下となります。

カルテ番号、出生情報、病歴、手術情報、精巣微小石灰化の有無など